

## 2 指導展開例

### 緊急地震速報を利用した避難訓練

#### 1 ねらい

緊急地震速報を受信した場合を想定した避難訓練を通して、地震発生時に素早く自分の命を守る行動ができる。

#### 2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 緊急地震速報についての基礎的な知識を知る。 ・簡単な仕組み ・緊急地震速報放送時のテレビ・ラジオの音声 ・地震発生までの時間 ・携帯電話による受信の方法	○ 緊急地震速報について知っていることを発表しましょう。	・緊急地震速報の音声を聞かせる。 ※TVチャイム音(NHK) <a href="http://www.nhk.or.jp/bousai/chime/in">http://www.nhk.or.jp/bousai/chime/in</a> ・NHK の下記 Web ページには解説動画がある。(2分30秒) <a href="http://www.nhk.or.jp/bousai/">http://www.nhk.or.jp/bousai/</a> ・緊急地震速報についてパンフレット等を用いて説明する
2 緊急地震速報受信し後の行動について考える。		
緊急地震速報を聞いたらどのように行動すればいいでしょう		
・すぐに机やテーブルの下に隠れる。 ・周囲の状況に応じて慌てずに行動する。	○ 場所による行動の仕方を考えよう。 ・家の中 ・屋外 ・バスや電車の中  ○ 実際に行動してみましょう。	・地震発生までに数秒～数十秒しかないことから瞬時に行動できるようにさせる。  ・緊急地震速報音を鳴らして、2、3回繰り返して練習する。
3 指定場所への避難訓練を行う。		
緊急地震速報を聞いて、避難訓練をしましょう		
①速報を聞く ②机の下に隠れる ③避難開始 ④整列・人員報告 ⑤指導講話等	放送内容 1 訓練概要説明 (アナウンス) 2 訓練開始報 (アナウンス) 3 緊急地震速報放送 (アラーム+アナウンス) 4 地震発生 (効果音) 5 避難行動開始案内 (アナウンス) 6 訓練終了報 (アナウンス)	・気象庁の「緊急地震速報の利活用の手引き及び緊急地震速報受信時対応行動訓練用キット」を用いるとよい。 <a href="http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/E">http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/E</a> ・家庭においても同様に瞬時に行動するようにさせる。 ・保護者へも資料を配布するなどして啓発する。 ・保護者参観日に実施するのもよい

※緊急地震速報に関しては、気象庁の下記 Web ページに様々な情報があります。

<http://www.seisvol.kishou.go.jp/eq/EEW/kaisetsu/index.html>

## 避難訓練のここをかえよう！

学校では毎年、火災、地震、津波、土砂災害などを想定した避難訓練を実施していますが、毎年同じような内容を繰り返すだけでは、実際の災害への対応力を身に付けることはできません。避難訓練を充実したものにするためには、緊迫感をもたせたり、地域と連携して実施したりするなど、避難訓練に工夫を加えることが大切です。



### 災害に関するワンポイント学習を行う

訓練の前に10分程度の簡単な学習を行う。

例)「津波の速さはどのくらいだろう」

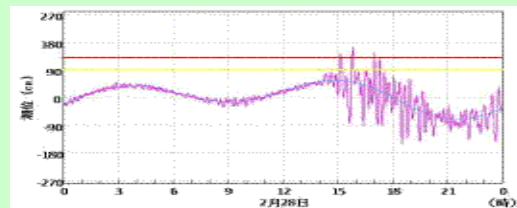
- ・チリ地震では17,000kmを22時間で到達
- ・ $17,000\text{km} \div 22\text{時間} = 770\text{km/h}$

例)「土石流から走って逃げられるか」

- ・時速40km。100m10秒の選手は時速36km
- ・土石流は全速力よりも速い

例)平成22年2月28日の「チリ地震津波」

1.2mの津波を観測した岩手県久慈港データ  
気象庁 Web ページ「潮位観測情報」より



### 休み時間に実施する

教員の指示が伝わらない時間や場所を想定して実施し、児童等が自分の判断で自分を守る行動がとれるようにする。混乱や問題が発生することも考えられるが、教職員が適切に支援し、安全に配慮しながらも何度も経験することが大切である。

### 放送を使わないで実施する

実際の地震では、停電により放送が使えないことも想定される。ハンドマイクやメガホンの使用や、一斉指示がなくても避難を始めるなどの訓練を実施する。

### シナリオの一部を知らせないで実施する

あらかじめ行方不明になる教職員や児童を決めておき、死角になる場所に待機させておく。担任や児童等には知らせずに実施し、正確な人員点呼、確認に対する意識を高める。

### 負傷者の救出や応急手当を組み合わせる

地域の医療機関と連携し、学校内で負傷者が出た場合の近隣病院への応援要請、教職員と児童等と一緒に、負傷者の救助・担架を使った搬送訓練等も行う。

### 幼小中で連携して行う

実際の災害発生では、児童等を保護者へ引き継ぐまでが学校の責任である。幼小中と保護者が連携し一斉に実施することで、保護者や地域の防災意識の向上も図ることができる。

### 地域の防災訓練と連携して実施する

地域の防災訓練と学校の避難訓練を併せて行い、地域の大人たちと行動を共にする。中学生以上は地域住民の避難を援助する活動も体験させ、共助意識の育成も図りたい。

## 大規模災害時の避難場所や連絡方法について確認しよう！

地震等大規模災害への対応では、訓練や学習等を通じ、児童生徒の防災対応能力を高めるとともに、災害時の学校の対応方針を家庭に伝え、災害後の混乱を防ぐことが必要です。また、地震は学校管理下外で発生することも多いことから(※1)在宅時の被災も含め、通学路及び自宅周辺の避難所やそこまでの避難経路等についても児童等が保護者等と充分に話し合っておくことが大切です。

【展開例】・・・次頁ワークシート例を活用

### 1 大規模災害時の避難について

- (1) 在校時の被災について、避難場所とその後の対応について説明を聞く。  
(津波等の二次災害が想定される場合の対応、安全確保後の下校対応)
- (2) 登下校時の被災について、対応の基本について説明を聞く。
- (3) 在宅時の被災について、対応の基本について説明を聞く。

### 2 避難場所の確認

- (1) 市町作成のハザードマップ(※2)を活用、通学路及び自宅周辺の避難場所を確認する。

### 3 避難経路の確認

- (1) 自宅から避難所までの避難経路を確認する。
- (2) (1)の経路上に危険箇所等がないか確認し、あれば、代替案を検討する。

### 4 大規模災害時の連絡について

- (1) 電話等の通信網が機能している場合の連絡体制について説明を聞く
- (2) 電話等の通信網が混乱し、機能していない場合の連絡体制について説明を聞く。  
(学校からの連絡は伝言ダイヤル171を活用)

### 5 家庭で確認すべきこと

- (1) 家庭で行う課題について説明を聞く。(課題：家族の避難場所や連絡体制の確認)

※1 平成7年に発生した阪神淡路大震災以降に発生した、負傷者50名以上の地震のうち、児童生徒が授業を受けている「学期中の平日の日中」に発生した地震は21回中3回  
出典「東日本大震災を受けた防災教育・防災管理に関する有識者会議」中間とりまとめ(文部科学省)

※2 ハザードマップの作成状況は以下のWeb頁を参照  
<http://www.pref.yamaguchi.lg.jp/cms/a10900/bousai/hazardmap.html> (県防災危機管理課)

【ワークシート例】

**大規模災害発生時の対応（〇〇小学校）**

児童氏名： \_\_\_\_\_

**学校にいたら？** → ① 「 \_\_\_\_\_ 」へ避難

※ 津波等の可能性があれば → ② 「 \_\_\_\_\_ 」へ避難

[保護者の皆様へ]

大規模災害発生時、本校では安全な場所への避難を最優先します。下校対応は〇〇市が二次被害等の恐れがないと判断してからとします。また、保護者の方の迎えが必要な場合、迎えに来られるまでは学校で保護させていただきます。

**登下校中だったら？** → ③ 「 \_\_\_\_\_ 」へ避難※

**在宅時だったら？** → ④ 「 \_\_\_\_\_ 」へ避難

※学校に近い場合は学校に避難

通学路の地図を書き、付近の避難所を確認しよう



家族の緊急連絡先、避難先を確認しておこう

[保護者の皆様へ]

学校外での大規模災害発生時に大切なことは、自らの命は自ら守ることです。学校においては、授業や避難訓練等を通じて、子どもの災害対応能力の向上に努めていますが、家庭でも災害時の対応について御指導ください。また、速やかな安否確認のため、家族が避難する避難所等をあらかじめ確認しておくことも大切です。

**学校からの連絡は？**

- 電話が通じている場合 → ⑤ 「 \_\_\_\_\_ 」や「 \_\_\_\_\_ 」で連絡します。
- 電話が通じていない場合 → ⑥ 「 \_\_\_\_\_ 」を活用します。

[保護者の皆様へ]

限られた地域で災害が発生した場合は、通信網が機能するため、電話連絡網や携帯メール等で連絡をおこなうことができますが、大規模災害発生時には、電話等の通信網が混乱することが予想されます。その場合、生徒の避難状況や学校の復旧状況等、学校からの連絡は、災害用伝言ダイヤル（使い方は右図参照）を活用することとなります。毎月1日・15日等にNTT西日本が体験利用日を設定していますので、それを活用し、本校も来月1日に伝言を録音しておきます。この機会にぜひ、利用法を御確認ください。



## 幼稚園

### 題材名 地震が起きたらだんごむし（学校行事）

#### 1 ねらい

地震が起きたときは、まず第一に頭部を保護することの大切さが分かり、歌と踊りを通して、地震で揺れたらすぐに行動できる。

#### 2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 地震の体験を話し合う。 ・どんな気持ちでしたか ・どんな行動をとったか 2 大きな地震が起きたときの被害について知る。 ・幼稚園（ガラス破損・落下・家具転倒） ・家の中 ・町の中 3 地震に伴う2次災害について知る。 ・火事 ・津波	○ 地震のときはどんな気持ちになりましたか。  ○ 地震が起きたときどうなるでしょう。  ○ 地震が起きた後、何が起きるか知っていますか。	・小さな地震の経験も、その時の気持ちや行動を話させる。  ・紙芝居やイラストを利用する。 ・今いる幼稚園の部屋について考えさせ、その後、自分の家や町中での被害について広げる。  ・津波の危険がない園でも、津波被害について触れる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px auto; width: fit-content;">地震が起きたら、すぐにどうすればいいでしょう。</div>		
・頭部を守る。  ・帽子、カバン、クッション、まくら、本など ・体を丸めて手で守る。	○ 体の中で、一番大切なところはどこでしょう。  ○ 頭にけがをしないようにするにはどうしたらいいでしょう。	・体の中で一番最初に守る必要がある部位を考えさせる。  ・頭部を守る方法を考えさせる ・物が無い場合の方法について考えさせる
5 地震で揺れたら、すぐにだんごむしのポーズをして頭部を守ることを体験する。	○ 地震が起きたときの歌と踊りを覚えましょう。	・県教委配付のCD参照。 ・「地震だ だんだん！」の歌と踊りに合わせて、頭部を守るポーズを繰り返させる。  ・「だんごむし」という指示により、体が反応するよう日常の遊びの中に取り入れる。 ・日常の避難訓練の際にかならず実施して徹底するとよい。 ・家庭でも取り組むように、保護者へ啓発する。  ・本授業を保護者参観日で実施するとよい。



## 幼稚園の防災授業で利用できる防災ソング

### 『地震だ だんだん』

(社) 土木学会「巨大地震災害への対応検討特別委員会 地震防災防災教育を通じた人材育成部会」が作られた防災ソングです。

作詞は山口大学理工学研究科の瀧本浩一准教授です。1 番「地震」、2 番「津波」、3 番「火事」への対応が歌われており、繰り返し歌って歌詞を覚えれば、地震災害時に自分の身を守るための行動が自然に身に付くようになっています。

また、この歌には、簡単に踊れる振り付けも作られており、歌って踊ることで楽しく身に付けることができます。

歌詞及び楽曲のデータは、下記 Web ページからダウンロードすることができます。

<http://www.bousai-gate.net/handbook/song.htm>

あつとつぜんやってきた　　じめんがゆらゆらびっくりだ  
じしんだじしんだ　　どうしよう　　そーだそーだあわてるな  
つくえのしたでだんごむし　　みんなでがまんのだんごむし  
だーんだんだーんだだん　　じしんだんだだん

あつとつぜんやってきた　　うみでゆらゆらびっくりだ  
つなみがつなみが　　やってくる　　そーだそーだにげるんだ  
たかいとこまでかけっこだ　　うみからとおくへはしったよ  
だーんだんだーんだだん　　つなみだんだだん

あつとつぜんやってきた　　いえじゅうゆらゆらびっくりだ  
ひがでるひがでる　　かじになる　　そーだそーだあわてるな  
おとなのひとにしらせたよ　　まわりのひとにしらせたよ  
だーんだんだーんだだん　　かじだよだんだだん  
だーんだんだーんだだん　　じしんだんだだん

(作詞：瀧本浩一/作曲：一井康二)

なお、(社) 土木学会の取組は、『一から始める地震に強い園づくり』として「平成16年度防災教育チャレンジプラン」に採用され、下記 Web ページに『幼稚園・保育園のための災害対策・防災教育ハンドブック』などが掲載されています。

<http://www.bosai-study.net/2005houkoku/plan01/index.html>

※ ハンドブックCD版に添付した踊りの映像は、振付作成元のコロムビアミュージックエンタテインメント株式会社の許可を得て作成しました。

※ 踊り映像は下記の「やまぐち総合教育支援センター Web ページ」でも見るすることができます。  
<http://shien.ysn21.jp/contents/teacher/anzen/jishin.html>

## 小学校 社会 第3・4学年

### 題材名 風水害から暮らしを守る

#### 1 ねらい

身近な地域の風水害に着目し、被害を防ぐための取組について見学や資料を調べる活動を通して、災害から人々の安全を守るため、関係機関が相互に連携し、地域の人々と協力していることを理解する。

#### 2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 台風による被害を考える。 ・風による被害 ・浸水、土砂災害 ・高潮	○ 台風ではどんな被害が起こるだろうか。	・児童がこれまでに体験した台風を想起し、多様な被害を挙げる。 ・児童が直接体験したことのない被害は、写真や映像で紹介する。
2 被害の未然防止への取組を調べる。		
台風の被害を防ぐためどんな工夫がされているのだろう。		
○ 国、県、市町の取組 ・崖崩れの防止 ・護岸・河川改修 ・水防倉庫の設置 ・避難場所の確保 ○ 関係機関の連携 ・消防署、警察署、市役所、病院、放送局等の連携 ・安全な避難誘導	○ 消防署の見学や資料をもとに被害を防ぐ工夫を調べよう。 ・被害を防ぐためにはどんな設備が必要だろう。 ・もし被害が起きたらどのような機関の協力が必要だろう。	・消防署で見学した様々な施設や設備、そこで働く人々から聞き取った内容を想起させる。 ・校区内にある災害防止のための施設、設備を地図上で確認し、その役割を紹介する。 ・被害の発生を想定し、一刻を争って事態に対処するため、各関係機関が連携して対処する体制をとっていることを調べさせる。
3 地域住民の協力を調べる。		
被害を防ぐため、住民ができることは何だろう。		
・避難訓練の実施 ・水防団による危険箇所の見回り、点検 ・防災倉庫の点検 ・避難用具の点検 ・避難場所、経路の確認	○ 小学生ができることは何だろう。	・関係機関による取組だけでなく、地域住民の関係機関への協力や助け合いが必要な場面について考えさせる。 ・児童自身も地域社会の一員として自分の安全は自分で守ることが大切であることに触れる。
4 災害防止への取組をまとめる。 ・火災、地震への対応	○ 災害から暮らしを守るにはどんな工夫や努力が必要だろう。	・身近な地域における災害防止の取組について、関係機関や地域住民、児童の関係を図示してまとめる。

小学校 理科 第5学年

題材名 台風の特徴を知り、台風対策について話し合おう

1 ねらい

台風の様子や被害について身近な人への取材や映像を通じて知るとともに、台風が来る際の対策について話し合う。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 天気は時間の経過とともに西から東に移動することを復習する。	○ 普通、天気はどの方向からどの方向に移動するであろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「高知大学気象情報頁」 <a href="http://weather.is.kochi-u.ac.jp/">http://weather.is.kochi-u.ac.jp/</a>等の画像をプリントまたはプロジェクターで示す。</li> <li>・日本上空の「気象衛星」の雲画像を数枚見せ、時間の経過順に並びかえさせる。</li> </ul>
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">                     台風の動き方や被害の特徴について知り、接近する際の対策について話し合おう。                 </div>		
2 太平洋上にある台風の動き方について、普通の雲の動き方との違いを学習する。 ・普通の雲と同じ。 ・渦を巻くからどっちに動くか分からない。 ・南からやってくる。	○ 太平洋上にある台風の動き方を調べよう。  ・普通の雲の動き方との違いを見つけよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタル台風：雲画像動画アーカイブ <a href="http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typho">http://agora.ex.nii.ac.jp/digital-typho</a>等の動画を見せ、台風の動き方(南から北に動く)を確認する。</li> </ul>
3 台風により、過去にどのような被害が出ているか発表し合い、被害の状況について知る。	○ 台風により過去にどのような被害が出ているか、調べたことを発表しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の経験だけでなく、家族や地域の人々へ取材させておく。</li> <li>・事前に身近なところで、いつ、どこで、またそのときの雨や風の様子、どのような被害があったのか調べさせておく。</li> </ul>
4 台風の特徴について学習する。 ・発生する主な場所や時期、季節ごとの進路、構造等	○ 台風の特徴について学習しよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・過去、山口県で被害が大きかった平成3年の台風19号の動きや被害等にもふれる。</li> </ul>
5 台風が接近する際の対策について話し合い、発表する。 ・「接近前」・・・ラジオ、ろうそく、非常食、雨戸等の用意、植木鉢を家屋に入れる等 ・「再接近時」・・・外に出ない等 ・「去った後」・・・周りの安全を確認して外に出る等	○ 台風による被害や特徴をもとに、台風が来る際の対策について考えよう。  ・小学生にはどのようなことができるだろうか。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「接近前」 「再接近時(暴風圏内にあるとき)」 「去った後」 に分けて、グループで考えさせる。</li> <li>・「テレビ、ラジオ等で台風情報を常時入手する。」等も加え、時系列にまとめる。</li> </ul>



小学校 道徳 第5学年

主題名 公德心 4－(1)

資料名 「米国人には理解不能、大地震でも揺るがない日本」(日本ビジネスプレス)

1 ねらい

震災時の日本人の行動について考えることを通して、公德心をもってよりよい社会をつくっていかうとする心情を育てる。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>1 震災のときの人々の様子確かめる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>被災の状況</li> <li>被災した人々の姿</li> <li>支援する人々の姿</li> </ul>	<p>○ 東日本大震災のときの人々の様子について、知っていることを発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>被災の様子とともに、人々の避難や復興のための支援などについても確認する。</li> <li>新聞記事やWeb等の効果的な資料を提示する。</li> </ul>
<p>2 資料を読んで、海外のメディアの報道内容や意味について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>日本人の態度(冷静さ、沈着ぶり)</li> </ul>	<p>○ 米国では、日本人についてどのような報道がされたのだろうか。</p> <p>○ 日本人から見れば当然のことが、米国で驚かされているのは、どうしてだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャスターと記者のやりとりに着目して、米国と日本での状況を比較できるようにする。</li> <li>外国との比較だけではなく、日本人のもつすばらしさに着目することができるようにする。</li> </ul>
<p>このような日本人の姿をどう思いますか。</p>		
<ul style="list-style-type: none"> <li>きまりの意義</li> <li>自他の権利の尊重</li> </ul>	<p>○ 震災のときであっても、日本人が大切にしていることは何だろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>自分の考えをもつことができるようにワークシートに思いを書く時間を確保する。</li> <li>補助資料を用いて説明する。 *他国における報道の例 *「心のノート」(小学校3・4年、p72.73) 阪神淡路大震災のときの避難所の様子</li> </ul>
<p>3 本時の学習を振り返り、自分の考えを発表する。</p>	<p>○ 「日本人の美德」とはどんなことだと思いますか。自分の考えを発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>仲間と話し合い、学習を通して考えたことや新たに分かったことについて、考えを深める。</li> </ul>

## 「米国人には理解不能、大地震でも治安が揺るがない日本」

(2011年3月15日「日本ビジネスプレス」より転載)

日本の大地震について、米国では大手の新聞もテレビも大々的な報道を展開している。政府の動きを見ても、オバマ大統領以下、クリントン国務長官らが次々に日本への激励や支援の意向などを表明した。民間でも各界で日本への救済や支援の動きが出てきた。

しかし、こうした米国側の広範な反応の中で私が特に興味を引かれたのは、史上稀にみるほどの無惨な被害に遭った日本国民の冷静さや沈着ぶりを、驚くべきことのように伝える米国側の報道だった。

これほどの被害に遭いながらも、なお日本人はパニックには陥らず、秩序を保ち、礼儀さえ保って、お互いを助け合っている、というのだ。これは日本人から見れば当然とも言える状態である。だが米国では、まるで異様なことのように報じられ、礼賛されている。日米の文化の違い、社会の相違とでも言えるだろうか。

「略奪のような行為は驚くほど皆無なのです」

まず、CNNテレビ（CNNのサイト）の12日夜のニュース番組が顕著だった。この番組では米国のスタジオにいるキャスターのウルフ・ブリツァー記者と、宮城県・仙台地区にいるキュン・ラー記者とのやりとりが日本国民の態度を詳しく伝えていた。

ブリツァー記者が「災害を受けた地域で被災者が商店を略奪したり、暴動を起こしたりという暴力行為に走ることはありませんか」と質問する。ラー記者はそれに対し、以下のように答えた。

「日本の被災地の住民たちは冷静で、自助努力と他者との調和を保ちながら、礼儀さえも守っています。共に助け合っていくという共同体の意識でしょうか。調和を大切にする日本社会の特徴でしょうか。そんな傾向が目立ちます」

ブリツァー記者が特に略奪について問うと、ラー記者の答えはさらに明確だった。

「略奪のような行為は驚くほど皆無なのです。みんなが正直さや誠実さに駆られて機能しているという様子なのです」

この日本からのラー記者の報告はCNNテレビで繰り返し放映された。日本人はこんな危機の状態でも冷静で沈着だというのである。明らかに日本人のそうした態度が美德として報じられていた。その報道は全米向けだけでなく、世界各国に向けても放映された。

中学校 社会(地理的分野) 第2学年

題材名 日本の自然環境の特徴と自然災害

1 ねらい

国内で起こる自然災害に着目して、日本を地域区分する活動を通して、日本の自然環境の特徴を大観する。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 国内で起こる自然災害をあげる。 ・地震・津波 ・火山噴火 ・台風・高潮 ・冷害・干ばつ	○ 日本ではどんな自然災害が起こっているだろう。	・生徒が体験やニュース等で見聞した自然災害を取り上げる。 ・記録写真や映像などで、様々な自然災害を紹介する。 ・二次被害（地震後の火事等）が発生することについても紹介する。
2 自然災害が起きる理由を考える。		
日本で様々な自然災害が起きるのは、なぜだろう。		
・地形(山脈、造山帯、平野) ・海岸(砂浜、岩石) ・気候(気温、降水量、風、梅雨、台風)		・グループ活動で、地形や気候の特色等の自然条件をもとに考えさせる。 ・地形や気候の特色と自然災害の因果関係を、モデル図に示してグループ内や学級全体に説明する。
3 自然災害による地域区分を行う。 ・地形による区分 ・気温による区分 ・降水量による区分	○ 自然災害に注目して、日本を地域区分しよう。  ○ 山口県では、どんな災害が予想されるだろう。	・発生頻度に注目して、各災害が発生しやすい地域を日本地図上で彩色させる。 ・日本地図を透明シートに印刷し、各災害地図を重ねて俯瞰できるよう工夫する。 ・山口県で発生が予想される自然災害に注目して、山口県の自然条件の特色を考えさせる。
4 日本の自然環境の特徴をまとめる。		
外国人に日本の自然環境を説明する紹介文を書こう。		
・不安定な地殻構造 ・四季の変化、温暖多雨 ・島国		・世界的視野から見た日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた国土の特色などを図や説明文で整理する。
5 自然災害への対策を考える。 ・住宅の工夫 ・防災施設(防潮堤等)	○ それぞれの自然災害への対策を考えてみよう。	・発展的学習として、各災害への日本各地域における対策を地図帳を使って調べる。

中学校 理科（第2分野）第3学年

題材名 地域の自然の特徴を調べ、防災対策について話し合おう

1 ねらい

自分たちが住んでいる地域の自然環境に関する恵みや過去に起きた災害について調べる活動を通して、自分たちにできる防災対策について把握する。

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
○ 自然のもたらす恵みと災害を知り、自分たちにできる防災対策について話し合う。		
1 地形図などをもとに、自分たちが住んでいる地域の自然環境について、特徴を調べる。	○ 自分たちが住んでいる地域の自然環境について、特徴を調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・山間部や平野部、川や海、活断層や火山があるか等の視点を示す。</li> <li>・調べる範囲は生徒や地域の状況によって、校区、市町等を選択する。</li> </ul>
2 自然からの恵みには、どんなものがあるか、話し合う。	○ 自然からの恵みには、どのようなものがあるだろう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・景観、温泉、水道、水、空気、土壌等身近な恵みを思い起こさせる。</li> <li>・1で調べたこと及び日常生活を振り返り、自然の恩恵について理解させる。</li> </ul>
3 過去に地域で起こった災害を調べる。 ・台風、洪水、土砂崩れ、火山噴火、地震等	○ 過去に自分たちが住んでいる地域で起こった災害を調べよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・個人やグループで担当を決める。</li> <li>・図書室の文献、インターネットを活用させる。 「各市町史の災害史」 「気象庁過去の気象データ検索」 <a href="http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/e">http://www.data.jma.go.jp/obd/stats/e</a> 等、参照</li> </ul>
4 自然からの恵みや災害と、地域の自然環境には関係があるかどうか考察する。	○ 自然からの恵みや災害と、地域の自然環境には関係があるか考えよう。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒にとって身近な例を解説する。</li> <li>・自然からの恵みと災害を合わせてとらえるよう指導する。</li> </ul>
5 地域における防災対策について、自分たちにできることはないか、話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分たちの地域における防災対策について考えよう。</li> <li>○ 自分たちにできることはないだろうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の自然環境の特徴を把握し、災害が起きる前の準備や起きたときの対策を立てておく必要性と、日常生活の中で天気予報、災害に関するニュースや行政の取組等に関心をもつことが大切であることを解説する。</li> </ul>

中学校 道徳 第2学年

主題名 社会の秩序 4-(1)

資料名 「不安あおるチェーンメール 『転送しない』が基本」(神戸新聞NEWS)

1 ねらい

震災時のチェーンメールへの対応について考えることを通して、社会の秩序を守ろうとする心情を育てる。

※ 新聞記事(P60)については各校配付の製本版を御活用ください

2 展開

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>1 チェーンメールについて、知っていることを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・チェーンメールの内容</li> <li>・拡大する理由</li> </ul>	<p>○ チェーンメールについて知っていることを発表しよう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・事前に生徒のパソコンや携帯電話等の活用状況を確認しておく。</li> <li>・補助資料を用いて具体的な事例を紹介する。 * 「心を育む学習プログラム」(県教委、p120、121)</li> </ul>
<p>2 資料を読んで、チェーンメールが与える影響について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・不正確な情報の伝達</li> <li>・震災時における人々の不安感</li> </ul>	<p>○ 震災時にチェーンメールが出回ると、どのようなことが起こるだろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・不正確な情報や情報不足による被災者の不安な状況について補足説明をする。</li> <li>・チェーンメールを受けたとき心の揺れについて、生徒一人ひとりの感じ方を確かめ、被災者の心情に共感させる。</li> </ul>
チェーンメールを防止することはできないのだろうか。		
<ul style="list-style-type: none"> <li>・法やきまりの意義</li> <li>・秩序ある社会の実現</li> <li>・相手のことを思いやる気持ち</li> </ul>	<p>○ 現代社会で必要とされる情報の確かさを見極める能力とは、どんな能力だろうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の考えとその理由を明らかにして、話し合いを進める。</li> <li>・仲間の多様な考えを聞きながら、比較・検討することができるようにする。</li> </ul>
<p>3 本時の学習を振り返り、自分の考えをまとめる。</p>	<p>○ 普段からどのようなことに心がけることが必要だろうか。自分の考えを書こう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ワークシートに書く時間を確保して学習をまとめるとともに、これからの課題についても実感できるようにする。</li> </ul>

## 高等学校 地理歴史（地理A）

### 題材名 我が国の自然環境と身近な地域の防災

#### 1 ねらい

日本の自然環境の特色と自然災害とのかかわりについて理解する。

国内にみられる自然災害の事例を取り上げ、地域性をふまえた対応が大切であることなどについて考察する。

#### 2 展開

学習内容・活動	予想される学習者の反応	教師の支援
<b>【導入】</b> ○日本の気候の特徴や自然環境を確認する。	・「モンスーンや、台風の影響が大きく、山がちな地形で、平野が少ない。」	・中学校の学習内容などをもとに日本の気候の特徴や自然環境を確認させる。
<b>【展開1】</b> 日本の自然災害にはどのようなものがあるか。自然環境とのかかわりはどのようなになっているのだろうか。		
○日本でみられる自然災害の事例をあげる。	・「環太平洋造山帯に位置し、地震災害が多い。」 ・「最近では、各地で土石流などを含む大きな風水害の被害があった。」	・近年日本で発生した地震災害や風水害、火山災害などの典型的な事例を取り上げる。 ・山口県は、地震は少ないが、三方を海に囲まれ、山がちな地形であることから、台風時の高潮や洪水、土石流などの被害について、注意が必要であることに気付かせる。
<b>【展開2】</b> 身近な地域ではどのような自然災害の危険があり、自然災害発生時には、どのように対応すればよいか。		
○学校所在地や生徒の居住地周辺の新旧地形図の比較を行う。 ・海や低湿地を埋め立てた場所や、山を切り開いて造成された場所、河川の流路変更が行われた場所、海拔高度ゼロm以下の地域などを着色する。 ○学校所在地や生徒の居住地周辺のハザードマップをもとに、グループごとに災害図上訓練（DIG）を行う。 ・自分の避難所はどこか。 ・地震や水害などの災害時に自分や家族がどのように行動すべきか。	・「海や低湿地を埋め立てた場所や、海拔高度の低い地域は、台風などによる高潮や洪水時に被害に遭う可能性がある。」 ・「地形の大きな変化が行われた場所の一部では、地震や豪雨時には、山崩れや、土石流への注意が必要だ。」 ・「日頃安全に暮らしている地域においても、災害時には注意しておくべき危険箇所があるんだ。」 ・「災害の種類によっては避難所への避難経路にも注意する必要がある。」	・日本では洪水から集落や農地を守るために、様々な種類の堤防が築かれたり、自然堤防の上に集落がつけられたりと、災害を防ぐ工夫がされてきたことにも気付かせる。 ・各自治体作成のハザードマップや、山口県土砂災害危険箇所マップなどを利用する。 ・生徒の生活圏においても自然災害の危険があることを具体的に認識させ、災害時における具体的対応を考えさせて防災意識を高めるよう工夫する。
<b>【まとめ】</b> ○本時の学習内容のまとめをする。		・それぞれの地域性を踏まえた防災意識をもっておくことの大切さを確認する。

※DIG・・・Disaster Imagination Game

(参考) 山口県土砂災害危険箇所マップ <http://kikenmap.pref.yamaguchi.lg.jp/kikenmap/select.aspx>

## 高等学校 公民（倫理）

### 題材名 地震発生時の人間の行動と心理

#### 1 ねらい

地震発生時に、人間はどのような心理状態となり、どのような行動を取るのか理解するとともに、自らの生命や家族など身の回りの人々の生命を守るための危機管理能力を身に付ける。

#### 2 展開

学習内容・活動	予想される学習者の反応	教師の支援
<b>【導入】</b> ○阪神・淡路大震災の被害資料を読み取る。	・「阪神・淡路大震災では、地震により多くの犠牲者が出たんだ。」	・本時の目標である地震発生時の人間の心理や行動に関心が向くよう留意する。
<b>【展開 1】</b> 地震に対する備えはどのようにすればよいのか。		
○地震に対する備えの大切さについて話し合う。	・「緊急地震速報を聞いたらずまず身の安全を確保し、火災等を防ぐ。」 ・「地震後の津波などに注意する。」	・地震に関する知識、津波の予知・予測、現場での決断などの大切さを理解させるように努める。
<b>【展開 2】</b> 地震が発生したとき、人間はどのような心理状態となり、どのような行動を取るのか。		
○パニックについての資料を読み、パニックとは何か、また、パニックの類型及び事例を学ぶ。	・「地震に関する情報が流言となって広がりパニックになることもある。」 ・「学校や公共交通機関、デパート、映画館など人が多く集まる場所でパニックが発生しやすい。」	・災害発生時にパニックを発生させないためには、集団の中に指導力の優れたリーダーがいること、集団の構成員が集団規範を遵守すること、また、集団の構成員の中に強い社会連帯意識のあることなどが大切なことを認識する。
<b>【展開 3】</b> パニックを防止するにはどのようにすればよいのだろうか。		
○パニックの防止対策の資料を読み、パニックの防止対策を考える。	・「地下などの閉じられた空間などはパニックを引き起こす原因となりやすい。」	・パニック防止対策を平常時と緊急時に分けて、ソフトとハードの両面から、対策を理解させる。
○地震発生後の人々の心理と日頃の備えについて考える。	・「非常時の対処について十分にわかっていない者が多い場合は混乱を引き起こす原因となる。」	・災害発生時の人々の心理や行動の状態を整理し、災害に対して日常心掛けなければならない対応策を確認する。
<b>【まとめ】</b> ○本時の学習内容のまとめをする。	・「日頃から災害発生時に落ち着いた行動をとるにはどうしたらいいか考えておこう。」	・自分のことだけでなく、障害のある方やお年寄りなど周囲の人々への心遣いも考えさせる。

(参考資料)「生きる力」をはぐくむ防災教育の展開 文部科学省

教職員のための防災事典 (独) 日本スポーツ振興センター

## 高等学校 理科（地学Ⅰ）

### 題材名 「火山活動と火山災害についての理解を深めよう」

#### 1 ねらい

火山活動によって引き起こされる災害に着目し、過去に発生した大きな火山災害を調べる活動を通して、火山災害が人間生活に大きな影響を与えることを理解する。

#### 2 展開

学習内容・学習活動	予想される学習者の反応	教師の支援
<b>【導入】</b> ○火砕流の映像を視聴する。	・「恐怖を感じる。」 ・「煙の正体は何だろう。」	・視聴した映像（雲仙普賢岳で発生した火砕流等）をもとに感想を紹介し合い、火山災害への関心を高める。
火砕流はどのようなものだろうか。		
<b>【展開1】</b> ○火砕流について学ぶ。	・「火砕流のスピードは 何と速いのだろう。」	・火砕流は高温のガスと火山灰等からなることを伝える。
<b>【展開2】</b> ○火山灰を観察して、特徴をまとめる。	・「粘土分が多い。」 ・「黒っぽい鉱物が多い。」 ・「火山ガラスが多い。」	・色や形に着目して観察するように促す。
山口県にも火山災害はあるのだろうか。		
○山口県に分布する火山灰の層について学ぶ。	・「山口県にも火山災害があったことに驚いた。」	・観察した火山灰は山口県で採集したものであることを紹介する。
山口県にも火山はあるのだろうか。		
○山口県に分布する火山岩について学ぶ。	・「火山岩が広く分布していることを知った。」 周南層群 阿武層群 阿武火山岩 等	・山口県の地質図を用いて、火成岩、たい積岩、変成岩の分布を調べさせる。
<b>【まとめ】</b> ○身近な火山を知り、災害についての心構えが必要であることを知る。	・「防災の必要性について考えてみよう。」	・今後の防災意識に対して一層の関心を高めるよう具体的な事例を紹介する。

※映像資料は、理科ネットワーク等を利用する



## 高等学校 理科（地学Ⅱ）

### 題材名 「気象に関する情報を収集し、生活に生かそう」

#### 1 ねらい

気象に関する観測システムについて理解するとともに、レーダー・アメダス等の気象に関する情報を収集し、それらの資料を活用することにより、天気の推移等を予想する。

#### 2 学習過程

学習内容・学習活動	予想される学習者の反応	教師の支援
<b>【導入】</b> ○日本付近の天気の変化の特徴を確認する。	・「一般に、天気は西から東に変化するよ。」	・小・中学校での「天気推移」の学習内容を想起させる。
天気予報を行うために必要な気象庁が行っている観測システムとはどのようなものがあるのか。		
<b>【展開1】</b> ○観測システムについて理解する。  ○ICTの活用により、アメダス観測の原理と方法について調べたことを発表する。	・「様々な方法を組み合わせて観測しているんだ。」  ・『「レーダー観測」は、雨粒に電波を放射して、戻ってくる電波の時間や強さから雨域等までの距離や雨や雪の強さを観測できることが分かった。』	・計器及び目視による観測やアメダス観測等を組み合わせて観測していることを解説する。  ・調べ方の分からない生徒には、参考となる Web ページを紹介する等の支援をする。
集中豪雨等の短期的な天気の変化はどのようにすれば事前に知ることができるのか。		
<b>【展開2】</b> ○レーダー・アメダス解析雨量図を実際に活用して、目的とする場所の短期的な天気の変化を予想する。	・「数分前の情報を見ることができるといい。」  ・「山口県に雨域が何分後に来るか分かった。」	・「動画」機能により、雨域の位置予測ができることを説明する。  < 利用するサイト例 > ・国土交通省「リアルタイムレーダー」 ・気象庁「レーダー・降水ナウキャスト」
<b>【まとめ】</b> ○本時の学習内容のまとめをする。	・「雨の降り出す時刻を予想してみよう。」	・「山口県土木防災情報システム」等、防災の観点において参考となる Web ページを紹介する。

※レーダー・アメダス解析雨量図は、インターネット等を利用する。

**特別支援学校 中・高等部 知的障害学級 生活単元学習**  
**題材名 災害から命を守ろう**

**1 ねらい**

代表的な災害である地震が発生したときの注意事項を学習することを通して、命の大切さを認識するとともに、いざというときに自分の身を守ることができる。

**2 展開**

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
1 災害に関する経験や知識を発表する。	○ 災害について、知っていることを発表しよう。	・イラストや写真等を活用して、できるだけ生徒の口から災害名や災害に関する経験、知識を引き出すようにする。
災害が起きたとき、命を守るために、どんなことに気を付けなければいだろうか。		
2 地震の恐ろしさについて話し合う。 ・いつどこで起こるかかわからない。 ・二次災害が起きる。 ・多くの命が失われる。	○ 地震が恐れられるのはなぜだろう。 ・地震はいつどこで起こるだろう。 ・地震の後、どのような危険があるだろう。	・大震災や大津波の資料等を活用し、生徒に地震に対する具体的なイメージをもたせる。 ・命の大切さに気付き、身を守ることの重要性を認識できるよう発問を工夫する。
3 地震が起きたときに、どうしたらいいか考え、お互いの意見を発表しながらワークシートに記入する。 (例) ・学校にいるとき ・家の中にいるとき ・駅にいるとき	○ こんなとき、大きな地震が起きたらどうしたらいいだろう。	・生徒一人ひとりに応じた対処方法を準備する。 ・生徒の実態に応じて、対処方法を選択肢にしたり、○×方式で回答できるようにしたりする等の工夫をする。 ・生徒の実態に応じて、望ましい行動も変わってくるのが理解できるよう配慮する。
4 地震が収まった後、避難するときの注意事項を確認し、ワークシートにまとめる。 (例) ・一人のとき ・廊下や階段で ・けがをしたら ・火がついていたら ・海の近くにいたら	○ 地震が収まったら、どうしたらいいだろう。 そのとき、どのようなことに気を付けたらいいだろう。	・必要に応じて、大声で「助けて」と言う練習をしたり、自分や友達がけがをしたときの申し出方を練習したりする。 ・生徒が一人だったときの、周囲への助けの求め方について、家庭とも相談の上、生徒一人ひとりに応じた方法を準備する。 (例)「防災カード」の作成やホイッスルの使用等
5 本時の学習を振り返り、地震が起きたときの注意事項をもとに、災害発生時の一般的な留意点を確認する。	○ 地震などの災害が起こったときに大切なことをまとめよう。 地震が起こったときに一番大切だと思ったことを、一人ずつ発表してみよう。	・自他の身の安全が第一であることを確認し、そのためのポイントを数点にまとめる。 (例) ・あわてない。 ・周りの人の言うことを聞く。 ・危険な場所から離れる。 ・一緒にいる人と離れない。

※参考資料 「自閉症の人たちのための防災 ハンドブック」(社団法人 日本自閉症協会)

**特別支援学校 学校行事**  
**題材名 目標をもって避難訓練をしよう**

**1 ねらい**

火災発生時の避難訓練を通して、命の大切さを認識するとともに、いざというときに適切な行動をとることができる。

**2 展開**

学習内容・活動	教師の働きかけ	指導上の留意点
<p>1 火災が発生して避難をするときに大切なことを発表し、避難訓練における自分の目標をもつ。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p style="text-align: center;">火事が起きて避難するとき、どのようなことに気を付けますか。</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>□時□分から火災発生を想定した避難訓練を実施することを事前に伝える。</li> </ul>
<p>(例)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・煙を吸わないよう、ハンカチで鼻と口を覆う。</li> <li>・走らない。</li> <li>・先生の指示通りに行動する。</li> <li>・転ばないように気を付けながら、できるだけ急いで避難する。</li> <li>・車いすの友だちのためにドアを開ける。</li> <li>・わからないことや困ったことがあったら、周囲の人に助けを求める。</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の一人ひとりの実態に応じた目標をもたせる。</li> </ul>
<p>2 避難経路を考える。</p>	<p>○ 避難をするときには、□□□に集合します。          ここからどこを通過して避難したらいいでしょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・マップや写真を使って、避難経路を考えさせる。</li> <li>・車いすで通れるところ、通れないところを事前に確認しておく。</li> <li>・実態に応じて、火災の発生場所を複数設定し、適切な避難経路を考えさせる。</li> <li>・必要に応じて、危険がないことをしっかり説明し心の準備をさせる</li> </ul>
<p>3 避難訓練の放送をよく聞き、実際に避難を経験する。</p>	<p>○ 落ち着いて、けがをしないよう気を付けながら□□□に避難します。          自分の目標を守って行動しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒の安全に配慮するとともに、児童生徒が自分の目標を意識し、守れるように言葉かけをする。</li> </ul>
<p>4 避難場所に集合し、講評を受ける。</p>	<p>○ (集合時) 全員そろっているか確かめましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クラスの全員がそろって避難できたことの大切さを意識させる。</li> </ul>
<p>5 教室に戻って、避難訓練を振り返る。</p>	<p>○ 避難をするときの目標が守れたかどうか、発表しましょう。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・児童生徒のよくできたところを賞賛するとともに、課題があった場合はどうすればよかったかを考えさせる。</li> <li>・実際に火事が起こっても、訓練と同じように行動すれば、安全に避難できることを確認する。</li> </ul>

### 3 総合的な学習の時間を活用した「防災教育プログラム」例（小中高）

総合的な学習の時間を活用した「防災教育プログラム」（10頁参照）について、土砂災害と地震を例に示します。

このプログラムでは、防災対策のキーワードである自助（自らの命は自ら守る）と共助（自分たちの地域は自分たちで守る）の考え方に基づいて学習を設定しています。

学習の流れは、①基礎的理解→②学校での安全→③家庭での安全→④地域での安全とし、以下に各過程における指導のポイントを示しています。

また、これらに加え、救急救命活動や発生後のボランティア活動などについて発展的に加えることも考えられます。

水害や高潮については、資料3『「防災教育支援事業」の成果』で紹介しているプログラムを参考にしてください。

## 各学習過程における指導のポイント

### ① 災害に関する基礎的な理解

- ・身近で起きた災害に関する資料を普段から計画的に集めておく。
- ・教科で以前に学習した内容を活用する。
- ・防災センター見学や地形調査などの体験的な学習を取り入れる。
- ・災害体験者や市町防災担当者等による話を取り入れる。

### ② 学校における安全について

- ・市町発行のハザードマップや山口県土木防災情報システムを活用して学校の災害の危険性の有無や特徴を調べる。（③家庭、④地域についても同様に調べる）
- ・学んだことを校内で紹介したり、避難訓練に生かす活動を行う。

### ③ 家庭における安全について

- ・写真やイラストを用いて危険予測学習（KYT）を取り入れる。
- ・②で学んだことを基に、自主的な学習を取り入れる。
- ・家庭での調査を一緒に行ったり、学んだことを家族に知らせたりする活動を取り入れるなど家族を巻き込んだ学習にする。

### ④ 地域における安全について

- ・これまで学んだことを基に、地域に貢献するための方法や課題を考え、グループ別に自主的に取り組ませる。
- ・作成物の配付だけでなく、地域の方と直接話をしたり公民館で提案するなど交流の場を設けたい。

**「土砂災害から身を守ろう」 最大10時間想定**

〇〇で起きた土砂災害について詳しく調べよう

学習テーマ／ねらい	学習活動・内容	備考
<p><b>「〇〇で起きた土砂災害についてくわしく調べよう」</b></p> <p>身近に起きた土砂災害について詳しく調べ、災害の恐ろしさを感じる。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○市内や県内で発生した災害の被害について知っていることを話し合う。</p> <p>○写真や映像等の資料から、災害の様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的災害</li> <li>・物的被害</li> </ul> <p>※平成21年7月の防府市の土砂災害の資料を活用する。</p> <p>○実際の被害者の体験を聞く。</p>	<p>・理科や社会科等の学習や地域における防災活動と関連付けて取り上げる。</p> <p>・土砂災害発生期に学習を行うとよい。</p>

災害発生の原因を調べよう

<p><b>「土砂災害はどうして起きたのか調べよう」</b></p> <p>土砂災害が雨、地形、土質が関係して発生することを知る。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○土砂災害が発生した原因について知っていることを話し合う。</p> <p>○市町発行等の防災資料で、土砂災害の発生の原因について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・短時間の大雨</li> <li>・谷に溜まった土砂</li> <li>・土砂にしみこんだ水</li> </ul> <p>○市町の防災担当者の話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の土砂災害の危険性</li> <li>・土砂災害の前兆</li> <li>・安全な行動</li> </ul>	<p>・ハザードマップの利用</p> <p>・県教委の出前授業の活用も</p>
---	---	---

学校での安全な行動について考えよう

<p><b>「自分たちの学校は大丈夫だろうか」</b></p> <p>学校の土砂災害の危険性について調べ、対応の必要性があることを知る。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○山口県土木防災情報システムを活用して、自分の学校の危険性について調べる。</p> <p>○学校周辺地図に土砂災害危険箇所を書き込む。</p> <p>○災害が発生した場合の被害について考える。</p>	<p>・「どこが危ないか」</p> <p>・土砂災害の被害にあった学校状況資料の提示</p>
<p><b>「学校にいた時に危険が迫ってきたらどうすればいいか」</b></p> <p>在校時に土砂災害の危険性が高まった場合の安全な行動について考える。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○学校で土砂災害の被害に遭わないためにはどうしたらいいか考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いつ逃げるか。</li> <li>・どこに逃げるか。</li> <li>・逃げるための情報収集の方法</li> <li>・避難する際に大切なこと</li> <li>・避難後の行動について</li> </ul> <p>○校長先生の話聞く</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校の避難計画について</li> </ul>	<p>・山口県土木防災情報システム「いつ逃げるか」の活用</p> <p>・学校の危機管理マニュアル等</p>

家庭での安全な行動の仕方を考えよう

学習テーマ／ねらい	学習活動・内容	備考
<p><b>「自分の家にいた時に危険が迫ってきたらどうすればいいか」</b></p> <p>在宅時に土砂災害の危険性が高まった場合の安全な行動について考える。</p>	<p>○自分の家の周りの危険性について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自宅周辺の地図に土砂災害危険箇所を書き込む。</li> </ul> <p>○危険が迫ってきた時の行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・早めの避難</li> <li>・避難場所、経路の確認</li> <li>・洪水の危険性の考慮</li> <li>・家族がいる場合といない場合</li> <li>・家族の話し合いの必要性</li> </ul> <p>○安全な避難方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・KYT資料を用いて、大雨が降った時の家の周りの危険性について考える。</li> <li>・安全な避難の仕方</li> </ul> <p>○家にいた時の家族に伝えることをまとめる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・土木防災情報システム「どこが危ないか」の活用</li> <li>・洪水の危険性も同時に迫っている場合もあり、安易に避難するのではなく状況をよく考えるようにする。</li> <li>・氾濫については自治体発行の洪水ハザードマップも用いた学習を行うことも考えられる。</li> </ul>
<p><b>2時間</b></p>		

地域の人に知らせよう

<p><b>「地域の人たちに土砂災害の危険性と安全な行動について伝えよう」</b></p> <p>自分たちの地域における土砂災害への安全な対応について、地域の人に伝える。</p>	<p>○校区内の大雨が降った時の危険性と安全な行動について、地域の人に伝えるための方法について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災パンフレット</li> <li>・防災カレンダー</li> <li>・公民館での発表</li> </ul> <p>○(例)「パンフレットづくり」 防災パンフレットで伝える内容を考える。</p> <p>○内容別グループに分かれて、パンフレットを作成する。</p> <p>○パンフレットを地域に配付する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・テーマごとにグループに分かれて進める等、状況に応じた取組にする。</li> <li>・必要に応じて、防災の専門家による話を聞く活動を取り入れる。</li> <li>・お互いの取組内容について随時、交流や意見交換を行う。</li> <li>・配付に併せて、公民館等で発表したりするのもよい。</li> </ul>
<p><b>4時間</b></p>		

**「地震災害から身を守ろう」 最大12時間想定**

〇〇で起きた地震について詳しく調べよう

学習テーマ／ねらい	学習活動・内容	備考
<p><b>「〇〇で起きた地震についてくわしく調べよう」</b></p> <p>最近起きた地震について詳しく調べ、災害の恐ろしさを感じる。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○最近発生した災害の被害について知っていることを話し合う。</p> <p>○写真や映像等の資料から、災害の様子を読み取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人的災害</li> <li>・物的被害</li> </ul>	<p>・理科や社会等の学習や地域における防災活動と関連付けて取り上げる。</p>

地震発生の原因を調べよう

<p><b>「地震はどうして起きたのか調べよう」</b></p> <p>地震発生は大陸プレートのはずれにより、断層が動いて発生することを知る。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○地震が発生する原因について知っていることを話し合う。</p> <p>○資料をもとに、地震の発生の原因について調べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレート型地震</li> <li>・活断層型地震</li> </ul> <p>○気象台や市町防災担当者等の防災専門家に話を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市の地震災害の危険性</li> <li>・安全な行動</li> <li>・災害発生時の対応</li> </ul>	<p>・県教委の出前授業の活用</p> <p>※防災センターの見学</p>
---	--	---------------------------------------

山口県の地震被害の可能性を知る

<p><b>「山口は地震の被害は少ないのだろうか」</b></p> <p>山口県も多くの活断層が発見されており、プレート型大地震の被害の可能性もあることを知り、地震への対応の必要性を考える。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○山口県の過去の地震被害や今後の可能性について知っていることを話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・安芸灘地震</li> </ul> <p>○「山口県地震被害想定報告書」により、山口県における過去の地震、今後の地震発生の可能性を調べる。</p> <p>○県内の地震体験者の話を聞く。</p>	<p>・活断層を白地図に写し取る。</p> <p>・特に自分の住んでいる地域に係る被害について詳しく調べる。</p> <p>・必要以上に恐怖感を煽らないように注意する。</p>
<p>※応用</p>	<p>※近くにある活断層の跡の見学を実施するのもよい。</p>	<p>※防災の専門家に指導を依頼</p>

学校にいた時の安全な行動について考えよう

<p><b>「学校にいた時に地震が起きたらどうすればいいか」</b></p> <p>在校時に地震が発生したときの安全な行動について考える。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○教室の中で地震が発生したときの危険性とその対応について、KYT資料を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・危険な場所</li> <li>・起こりそうな危険</li> <li>・ふさわしい対応             <ul style="list-style-type: none"> <li>転倒・落下防止策</li> <li>整理整頓</li> <li>身を守る行動</li> </ul> </li> </ul> <p>○自分の教室の危険性について実際に確認する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教室の平面図に書き込む。</li> </ul> <p>○学校内のその他の場所における危険性と安全な行動について考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・廊下、階段</li> <li>・体育館</li> <li>・特別教室</li> <li>・運動場</li> </ul> <p>○避難訓練の重要性について話し合う</p> <p>○校長先生の話聞く</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家具の転倒・落下防止グッズの提示</li> <li>・実際に行動してみる。</li> <li>・その場で落下物の移動や転倒防止策を施すこともよい。</li> <li>・避難訓練の写真・映像</li> <li>・校長先生に提言する活動にしてもよい。</li> </ul>
<p>※応用</p>	<p>※校内の危険性について、他の学年に伝えるための資料づくりを行うこともよい。</p>	

家の中にいた時の安全な行動について考えよう

<p><b>「自分の家にいた時に地震が起きたらどうすればいいか」</b></p> <p>家の中にいた時に地震が発生した場合の安全な行動について考える。</p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○家の中で地震が起きたらどこが危険いかKYT資料を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家具転倒、落下の危険性</li> </ul> <p>○我が家の危険の自己診断をするために部屋の平面図を書く方法を学ぶ。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・写真を撮ってくることもよい</li> </ul> <p>※起震車体験もよい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・資料1 (P62)</li> <li>・実際に起こった地震災害の室内写真を見せてもよい。</li> <li>・食事をする部屋を診断する。</li> <li>・家族と話し合いながら書く。</li> <li>・参観日実施、家庭案内等により家庭へ啓発。</li> </ul>
	<p>○自宅の危険性について、平面図に書き込む。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・起こりそうな危険を書き込む。</li> </ul> <p>○書き込んだことを基に、被害を未然に防ぐための方法を話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・家具の固定</li> <li>・整理整頓</li> </ul> <p>○地震が発生した場合の安全な行動について話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・テーブルや机の下等へ迅速に避難</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・他の部屋等の危険性は家庭学習で行う。</li> <li>・緊急地震速報についてふれる</li> </ul>



	<p><b>1時間</b></p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・クッションなどで頭部を守る</li> <li>・揺れが収まったら安全な場所へ避難</li> </ul> <p>○学んだことを家族に伝えるための資料を作る。</p> <p>※家族との話し合い（家庭学習）</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・家族を巻き込んだ活動にするよう工夫する。</li> </ul>
--	-------------------	--	---

<p><b>家の周りにいた時の安全な行動について考えよう</b></p>	<p><b>「家の周りにいたときに地震が起きたらどうすればいいのか」</b></p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○家の周りで地震が起きたらどこが危険かKYT資料を基に話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒れてきそうなブロック塀、自動販売機、石造物等</li> <li>・窓ガラス</li> <li>・電線</li> </ul> <p>○土砂崩れや津波、火災などの地震の二次被害について、地域の実態に応じて学ぶ。</p> <p>○家の周りで地震が発生したときの安全な行動についてワークシートに書き込んで話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・倒壊危険物から離れる</li> <li>・ガラスや落下物に気を付ける</li> <li>・土砂崩れ、津波、火災に気を付ける</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の状況に応じて多様なKYT資料を用いる。</li> <li>・地震被害の写真や映像</li> </ul>
--------------------------------------	--	---	--

<p><b>地震が収まった後の安全な行動</b></p>	<p><b>「地震が収まった後、どのように行動すればいいのか」</b></p> <p><b>1時間</b></p>	<p>○揺れが収まった後、災害現場で起こることについて話し合う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・落下</li> <li>・倒壊</li> <li>・火災</li> </ul> <p>○安否の確認</p> <p>○避難所への移動</p> <p>○けがをしている人の救助</p> <p>○避難所での生活</p>	
------------------------------	---	--	--

<p><b>地域のために自分のできることをしよう</b></p>	<p><b>「地震発生時の地域の被害を少なくするために、自分のできることをしよう」</b></p> <p><b>4時間</b></p>	<p>○これまで学んだことを基にして、地域での地震被害を少なくするために、自分たちのできることを考える。</p> <p>○課題別にグループに分かれて、資料収集をする。</p> <p>○課題解決にふさわしい啓発方法を考え、準備する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・防災マニュアル作成</li> <li>・パンフレット配布</li> <li>・ホームページ作成</li> <li>・地域公開（発表）</li> </ul> <p>○実際の啓発を行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・必要に応じて、防災の専門家による話を聞く活動を取り入れる。</li> <li>・お互いの取組内容について随時、交流や意見交換を行う。</li> </ul>
----------------------------------	---	---	---

## 「地震を克服する」 岩手・宮城内陸地震の教訓

平成20年6月に発生した岩手・宮城内陸地震で最大震度6強を観測した宮城県栗原市の災害から、学校教育に関して得られた教訓をご紹介します。（「文部科学時報」平成20年11月号）

### 1 **心のケアが大切！** ～子ども達の心の被害を最小限に食い止められたわけ～

- (1) 地震当日は土曜日であり、すぐ近くに家族がいた状況が児童等の不安を最小限に抑える結果になった。
- (2) 緊急時の迅速な心のケア体制（スクールカウンセラーを緊急に派遣した）
- (3) 教職員のきめ細かいケア
  - ① 地震直後に家々を回り児童等の安否確認
  - ② 保健室（養護）が大きな役割：子どもの話を聞き、安心感を取り戻す。
  - ③ 登下校の送迎時や放課後に保護者と話すことで、児童等の状況の把握とともに保護者の不安感の除去にも役立った。

### 2 **登下校時・登校後等に地震が発生した場合を想定した防災教育が大切！**

- (1) 登下校時、登校後等の状況に応じた避難訓練
- (2) 家庭と連携した引き継ぎ訓練
- (3) 地震発生時の安全確保→確実な避難→確実な下校へとつなげる実効性のある訓練
- (4) テレビ・戸棚・ロッカーの固定（多くの学校で落下が見られた）
- (5) 安全点検に児童等も参加させ、子どもの目線で安全のチェック
- (6) 避難経路の安全の再確認：体育館の天井落下等が目立った。危険な場所が避難経路に指定されていないかどうかチェック
- (7) 確実迅速な安否確認の方法の確立：地域のネットワークを生かした情報収集が大切

### 3 **訓練の成果は活かされる**

**地震発生直後、一番最初に机の下に隠れたのは子ども達だった！**



被災後の登校の様子

（栗原市市政情報課広報広聴係Webページから）